

ふれあい

2014

9

No.330

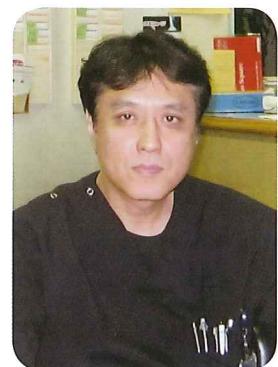
牛久愛和総合病院 広報誌



「蓮畠」撮影：情報システム室 有国圭司

「怪しい」健康食品・サプリメントがますます増える？

特任副院長兼内科部長 千葉 俊也



昨年安倍内閣は規制改革実施計画を閣議決定しましたが、この中で健康医療分野の個別措置事項の一つとして「一般健康食品の機能表示を可能とする仕組みの整備」が挙げられ、いわゆる健康食品の機能性表示について規制緩和の方向性が示されました。

以前当欄で代替医療に関する拙文を通して、現在流通している健康食品・サプリメント等の大部分が科学的根拠を欠いていることを述べました。しかしながらその後も外来等でこれらの摂取に関する質問を受けることは少なくなく、一向に減少した印象はありません。つい最近週刊文春はサプリメントに関する記事を三週に渡って特集し、その骨子は多くのサプリメントに科学的根拠が乏しいとす

る批判的なものでした（7月17日号～31日号）。さらに追随するかのように週刊新潮でも「健康食品」実は9割が効果なしという2兆円市場の「疑似科学」「エセ医学」と題する強烈な批判記事を掲載しています（8月14・21日号）。このような記事を大手週刊誌が取り上げるということは、と

以前当欄で代替医療に関する拙文を通して、現在流通している健康食品・サプリメント等の大部分が科学的根拠を欠いていることを述べました。しかしながらその後も外来等でこれらの摂取に関する質問を受けることは少なくなく、一向に減少した印象はありません。つい最近週刊文春はサプリメントに関する記事を三週に渡って特集し、その骨子は多くのサプリメントに科学的根拠が乏しいとす

る批判的なものでした（7月17日号～31日号）。さらに追随するかのように週刊新潮でも「健康食品」実は9割が効果なしという2兆円市場の「疑似科学」「エセ医学」と題する強烈な批判記事を掲載しています（8月14・21日号）。このような記事を大手週刊誌が取り上げるということは、と

りもなおさずいわゆる健康食品・サプリメントが、いかに日常生活に蔓延しているかを示しています。

「おなかの調子を整える」「コレステロールの吸収を抑えます」「食品へのこのような機能表示は、これまで「特定保健用食品（トクホ）」と「栄養機能食品」のみに認められてきました。今後は冒頭で述べた規制改革により、これまで曖昧にしか書けなかった宣伝文句が、企業の責任で体にどう機能するかを明確に表示できるようになります。この規制緩和は消費者が商品を選びやすくすることで、市場を拡大させるのが狙いとされています。政府が参考にしているのは米国が1994年から始めた「ダイエタリーサプリメント制度」で、医薬品とサプリメントの区別やサプリメント摂取の目的の明確化、サプリメントに対する知識と理解の促進、産業育成、医療費削減などの目的で始まったものです。その結果米国では関連企業が急成長し、市場が大きく拡大した一方、企業自らの判断で効果を表すため、科学的根拠がない商品が続出してくるという弊害が出てきました。2012年に米国保健福祉省が健康食品の表示に示できるため、科学的根拠がない商品が続出してくるという弊害が

く、動物等の実験結果しかなかつた商品や、中には論文ではなく30年前に大学生が手書きで作ったレポートを根拠としていた商品もあつたようです。こうした健康食品類を摂取しても効果がないばかりかむしろ健康被害をもたらす可能性もあり、事実そうした事例は後を絶ちません。米国のある弁護士は科学的根拠のない健康食品がびる現状を「大規模に行われる小さな詐欺」と呼び、「効果がないものによって経済を成長させるべきではない」と批判しています。

こうした問題点を鑑みると政府が目指す規制緩和には様々な欠陥があるよう思えます。健康食品の機能表示の禁止は、医薬品との区別を明確にして消費者を保護するためでした。それにも関わらずいわゆる健康食品・サプリメントは、その巧妙なグレーゾーン宣伝により広く用いられているのが現状です。この制限を撤廃し、消費者の安全を確保する責任を国が負わずに判断を自己責任とすれば、米国同様怪しげな製品が今以上に蔓延することが危惧されます。実際昨年の実施計画の発表後、日本弁護士会や全国消費者団体連絡会は「むしろ規制を強化すべき」との意見書を表明しています。個人的にも今の状況では、規制を緩和させることよりも、むしろ科学的根拠のない広告宣伝や表示については取締りを厳格化する方向にすべき

春秋園だより



時折、肌寒く感じる日々が
増えてきましたが、皆様いか
がお過ごしでしょうか。

今回は八月十日に春秋園で
行われた「入所夏祭り」につ
いて、紹介させていただきま
す。

今年の夏祭りでは、恒例の
職員による神輿担ぎから始ま
り、利用者様によるご長寿ク
イズ、ご家族の皆様にも参加
していただき、スイカ割りや
盆踊り、職員による、南中ソ
ーラン節などの催しが行われ
ました。

今年の夏祭りでは、利用者様
による神輿担ぎから始ま
りました。

また、職員による、南中ソ
ーラン節では、夏の暑さにも
負けないくらい「どっこいし
ょー！どっこいしょー！」と
いう掛け声がフロア内に響き
渡りました。

あつという間の時間でした
が、利用者様、ご家族の皆様
が協力し、楽しんでいただけ
る良い機会となつたのではないか
と考えています。

(入所スタッフ一同)



高校生一日体験学習（看護部・リハビリ）

の感想がありました、「参加
して貴重な体験ができた」「仕
事にやりがいを感じ、看護師に
なりたいと思う気持ちがより一
層強くなつた」などの感想も聞
かれ、現場の看護師も沢山の元
気を頂きました。

●看護部

今年7月28日、8月4日の2
日間にわたり「高校生一日看護
体験」が開催されました。

多くの高校生が参加し、総勢
60名の高校生が当院を訪れまし
た。

高校の制服から実際に当院の
看護師が着用している白衣に着
替えていざ体験スタート。

緊張した顔で各部署の担当看
護師と挨拶をしてから、看護師
と一緒に行動を共にして、様々
な体験をしました。

院内の施設見学後、病棟では

担当看護師の指示のもと車椅子
体験や血圧測定体験、実際に患
者様の足浴や手浴、看護師が行
っているケアを見学する等の幅
広い体験をすることが出来まし
た。

●リハビリ



8月20、22日の2日間に分け
て、高校生を対象としたリハビ
リ見学会を行いました。参加者
はリハビリ専門職に興味がある
高校生8名でした。



当日は理学療法、作業療法、
言語療法を見学して頂きました。
治療場面の見学では患者さ
んと実際にふれあえて良かつた
との声が聞かれました。また、
リハビリの検査を体験してもら
い、仕事に対する理解が深まつ
たのではないでしょう。

今回の見学会をきっかけに、
よりリハビリ専門職に対する興
味を深め、具体的な将来像を持
つて頂ける有意義な機会となつ
ていれば幸いです。

(文責:リハビリ 鬼澤)



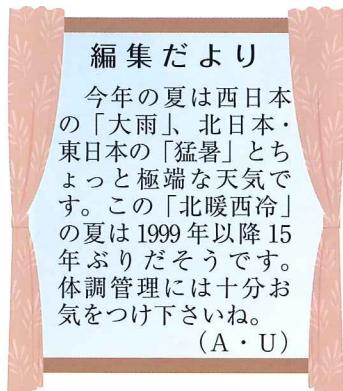
今年もわれわれ牛久愛和総合病院は、春秋園と共に、うしくかつば祭りに参加いたしました。

梅雨明けに相応しく、ギラギラした太陽が照りつける厳しいコンディションの中、無事最後まで踊りきることができました。

そのうえ、「ハッピー賞」までいただきことができ、その時の皆のはじけるような笑顔が、今でも忘れられません。

これからも、かつば祭りのみならず、常に地域の皆様方にハッピーな笑顔をお届けできる様職員一同励んでまいります。

(福利厚生委員 羽鳥)



(総務課 中村)

この経験を今後に活かしていきたいと思います。

病院理念 我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床（一般434床 医療療養型55床）

施設

敷地 59,449.60 m² 駐車場 1151台



日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ <http://www.jojinkai.com>

《関連施設》

総合健診センター	Tel 029-873-4334
健康増進施設 スポーツリラックス	Tel 029-874-8791
介護老人保健施設 春秋園	Tel 029-870-3100

かつば祭り

△出来事ピックアップ△

7/26

総合火災避難訓練

7/18

平成26年7月18日、院内にて

総合避難訓練を実施致しました。

今回は当院C館2階を火元と想定して訓練を行うため直前まで火元を職員に公表せず、より現実に近い形での訓練を実施。訓練する私たちも緊張感を持って取り組むことが出来ました。

今回の避難訓練の参加により私達は何をすべきなのか、私達には何が足りないのか、そしてその足りないものをどうやって補っていくべきなのかを考えさせられました。

診療科目

【一般外来】

総合診療科（内科）、消化器内科、糖尿病・代謝内科、循環器科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、神経内科、リウマチ科、心療内科、小児科、総合外科、救急科、甲状腺・内分泌外科、乳腺科、消化器外科、内視鏡科、形成外科、整形外科、ペインクリニック、産婦人科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、歯科口腔外科、透析外来（シャント外来）

【専門外来】

整形専門（股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、足の外科）
小児科（小児循環器、小児心理）
循環器（心臓血管外科）
皮膚科（レーザー）

